

令和8年度 第2回 ゆうさくコミュニティ・スクール協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和8年7月29日(水)午前10時30分から午後12時10分
- 2 開催場所 浜松市立雄踏小学校 会議室
- 3 出席委員 楠野正人、坂田尚久、宮崎純恵(学校支援コーディネーター兼務)
鈴木隆之、渥美徳之、鈴木光一、澤井由紀子、鈴木謙吾
- 4 欠席委員 鈴木孝紀
- 5 学 校 青島治道(校長)、岩佐好純(主幹教諭)
全教員、能勢雅代(CSディレクター)
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 能勢雅代
- 8 議長の選出 司会の宮崎委員より年間を通して楠野会長に議長をお願いしたい旨
申し入れがあり、異議なく全員が了承した。
- 9 協議事項 ①教育活動の充実と学校における働き方改革の推進について
- 10 会議記録 司会の宮崎委員から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数
に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

【熟議】運営委員と教諭による合同グループ協議<①～⑦グループ>

<①グループ:坂田委員、教員 4 名>

- ・1年生の配膳補助(特に牛乳パックを開く時)はとても助かった。(教員)
- ・スタートカリキュラムは実施したほうが良いが授業の進度とのバランスが課題である。(教員)
- ・教員としての自分らしさを発揮できていないと感ずることがある。(教員)
- ・家庭ではぜひ、たくさん子供の話聞いてあげてほしいと思う。(教員)
- ・登下校の見守りやあいさつ運動にボランティアをもっと活用してほしい。(坂田委員)
- ・特に低学年の担任は教室を空ける時間の確保が難しい。下校時までトイレに行けない日もあ
る。(教員)
- ・勤務時間や休憩時間を守って勤務できるような体制が望ましいが、様々な課題もあると感ず
る。(教員)
- ・各学年に応じた人権教育講座の場を設けてほしい。(坂田委員)

<②グループ:鈴木隆之委員、教員 3 名>

- ・アンケートでは6年生は自己肯定感が高い結果が出た。地域、家庭の影響だけでなく先生方
の日々の頑張りが数字に表れたと感ずる。(教員)
- ・アンケート結果から雄踏小は家庭学習の時間が多くないことが分かる。学習内容の理解に差
が生じなければよいがと心配する。(隆之委員)
- ・ゆうさく教室は子供の成長が大きく本当にありがたい。(教員)
- ・今年は宿題のやり方を工夫した。書き取りについては低学年のうちはきちんと書くということに
重点をおき指導したい。(教員)

- ・フリーの先生のフォローが子供のためには大切。フリーの安定した配置があるとありがたい。1年生の支援員や水泳指導時の支援員もいてくれるとありがたい。(教員)
- ・市の予算などの課題もあると思うが、本来、先生がやるべき仕事を落ち着いてできるように現状を訴えていくことは大事である。(隆之委員)

≪③グループ:渥美委員、教員 4 名≫

- ・学校に寄せられる様々な意見を先生たちだけでなく地域も一緒になって対応してあげたいと思う。学校と保護者や地域の関係性も大事にしたい。学校が昔と変わっていると感じる。(渥美委員)

≪④グループ:鈴木光一委員、教員 4 名≫

- ・1年を通してなりたい自分を意識させ、目標を自分で描けるように指導してほしい。(光一委員)
- ・児童の性格、生活環境、学力、学級の質などを日々大切に授業や指導に生かしたい。(教員)
- ・成長や頑張りを認めることで主体性を持つことにつなげたい。主体性が大事である。(教員)
- ・先生も児童も体験が足りていないものがあると感じる。自分の体験を生かし「楽しませよう」という気持ちを大切に頑張ってもらいたい。地域の方や保護者の協力を活用していこう。(光一委員)

≪⑤グループ:宮崎委員、教員 4 名≫

- ・宿題の出し方や丸付け方法にまだ工夫の余地がある。(教員)
- ・どの子にも学年相応の学力がつくために低学年にはゆうさく教室を促したい。(一同)
- ・読書が少ないと感じる。読書を促進する工夫を地域も協力しながら考えたい。(宮崎委員)
- ・水泳や跳び箱、糸鋸や彫刻刀を使用する授業等、危険を伴う活動での補助がほしい。(教員)

≪⑥グループ:鈴木謙吾委員、教員 4 名≫

- ・自分の考えや思いを文章で書く経験自体が減少しているだけでなく、考えて書くことに自信のない子もいると思う。二学期は「考えて書く」を意識的に指導したい。(教員)
 - ・宿題の内容を自分で選択させることは保護者目線ではどう感じるのか聞きたい。(教員)
- 子供だけでは偏りが出てしまうことを心配する。偏り無くできるなら良いと思う。(謙吾委員)

≪⑦グループ:澤井委員、教員6名≫

- ・保護者の考えを聞くことで教員も育てられる。情報を共有し子供を育ててほしい。(澤井委員)
- ・保護者の期待をどのように子供へ還元するのか、実態の調整をして理解を得ている。(教員)
- ・個々に応じて、ゆとりを持って丁寧に対応することで保護者と密に繋がれると感じる。(教員)
- ・校外学習などで地域の方から温かい声をかけてもらっている。ゆうさく教室は居場所の一つでもあり、大人との関わりの機会にもなっている。多くの地域の方が関わってくれる雄踏地区はすごいと感じる。(教員)
- ・様々なニーズに応えるのは大変であるが教員同士の縦や横のつながりを活用し、やりがいを持ってやってほしい。(澤井委員)

【連絡】

【第3回】令和8年12月15日(火)13:30～15:30 (授業参観含む)

【第4回】令和9年 2月 5日(金)14:00～15:30